

ふるさとで働こう 避難で離れたふるさとで働く若い担い手達の物語

平成23年3月に発災した東日本大震災から13年が経過しました。飯館村は震災の翌月に計画的避難区域に指定され、子ども達が通う学校も、再開と同時に村外に避難しました。

その激動の時期を当事者として経験した子ども達が、今、働く世代に成長しています。避難で離れたふるさとで仕事に就く人も、次第に増えてきています。震災当時の小学生・中学生で、現在村内で働いている皆さんに、当時のことを振り返りながら、ふるさとで働くそれぞれの想いを聞かせていただきました。



佐藤 匠さん(蔵平)

震災の日は小学5年生

佐藤さん

大内美咲さん(佐須)

震災の日は小学1年生

大内さん

小学校の仮設校舎には、5年間通いました。3校合同で友達が増え、それぞれの学校のいい所を調べて発表したこともあり、経験できたことが多かったように思います。中学校は渡利中学校に転校。高校卒業後は、進学よりも働きたいと考えて、こちらに入社しました。私も母が菊池製作所に勤めていて小さい時から仕事の話を聞いていました。他の工場でも役に立てる機会があるなど、いろいろな仕事を経験できて、想像以上に自分に合っていて、楽しいです。

小学6年生の時は、川俣中学校に間借りした校舎に通って、そのまま川俣中学校に進学しました。村の学校が好きでしたが、同じように川俣中学校に通う友達がいて不安はありませんでした。家は震災前は酪農をしていて、母が菊池製作所に勤めていました。そのおかげで酪農と菊池製作所が、小さい時から仕事の選択肢の一つにありました。菊池製作所には昨年4月に入社しました。忙しい時もありますが、周りの人に恵まれ、「分からない時はいつでも聞いて」と言われていて、仕事をしやすい環境です。

全村避難に伴い学校も避難しました

平成23年度は、川俣町内の学校の校舎を間借り。子ども達は避難先からスクールバスで登校しました。写真は川俣中学校の校舎で学んだ3小学校の1学期終業式。



震災により中止された3小学校の平成22年度卒業式を、同じく卒園式が中止された2幼稚園と合同で挙行。平成23年12月に川俣中央公民館で行いました。



飯館中学校の生徒が福祉体験の一環で仮設住宅で清掃や炊き出しを行うようになりました。田植え踊りの練習と披露も始まり、避難する村民を勇気づけました。



田植え踊りの活動は、避難で離れたふるさとを学ぶ「ふるさと学習」の中で継続され、それらを基礎に村独自の教科「いいたて学」が誕生しました。

震災前の飯館村には、草野小学校、飯樋小学校、白石小学校の3つの小学校と、飯館中学校がありました。震災のひと月後、4月11日に計画的避難区域となり、3小学校と中学校は、4月20日に飯館中学校体育館で合同の入学式を行い、川俣町の学校施設へ移って学校活動を再開しました。3つの小学校は川俣中学校を間借りし、翌24年度から、川俣町内に整備した仮設校舎に移りました。3校合同の行事の名称は「いいたてっ子運動会」「いいたてっ

子発表会」となり、式では3校の校歌を皆で歌っていました。飯館中学校は、川俣高校の施設の二部を間借りして、学校活動を再開しました。中学校の仮設校舎は福島市飯野町の空き工場を改修して整備され、平成24年の2学期から移転しました。学校の避難は7年間に及びました。子ども達は、困難な時期も、その時その時を精一杯に過ごしていました。避難を経験しているからこそその学びや交流にも取り組みました。

飯館中学校仮設校舎



- 平成23年3月 東日本大震災
- 平成23年4月 川俣町内の学校施設を間借りし避難
- 平成24年4月 草野・飯樋・白石小学校仮設校舎開校
- 平成24年9月 飯館中学校仮設校舎開校
- 平成29年3月 一部を除く村内の避難指示解除
- 平成30年3月 小学校・中学校の仮設校舎閉校
- 平成30年4月 草野・飯樋・白石小学校、飯館中学校帰村
- 令和2年4月 義務教育学校いいたて希望の里学園開校



草野・飯樋・白石小学校仮設校舎